

<麦類の栽培ポイント>

1 麦の生育状況

11月の播種時期に好天が続いたため、播種は順調に行われ、出芽・苗立ちも順調でした。気象庁の3か月予報（2023年11月21日発表）によると、今後（12月～2月）の気温は「高い」確率が60%、降水量は「平年並または多い」確率ともに40%と予想されています。

暖冬傾向の年は麦の生育が早く進み、春先の凍霜害を受ける可能性が高くなります。麦踏みを行って生育を抑制しましょう。

2 麦踏み

○3葉目が展開したら、1回目の麦踏みを行いましょう。生育が遅れている場合は無理に踏まず、3葉目が展開したら実施します。

○圃場が乾燥しているときに実施しましょう。雨や雪によって土壌水分が高いときに麦踏みを行うと、土が締まり湿害による根傷みを起こし、生育不良に繋がります。土を手で握り、湿った状態であれば無理な麦踏みは避け、圃場が乾いてから麦踏みを行いましょう。

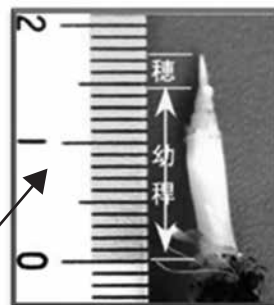
○麦踏みの回数は、莖立期直前までに3～4回が目安です。麦踏みの間隔は10日から2週間程度あけるようにします。根張りを良くし、寒さに強い麦を生産するために麦踏みを行いましょう。



麦踏みの効果 →

- ① 分けつを進める
- ② 根張りを良くし、耐寒性をつける
- ③ 霜柱などによる凍上害防止
- ④ 暖冬時、早すぎる莖立ちを抑える
- ⑤ 穂ぞろいを良くする

幼穂が2 cm程度になるまで踏圧できます。
この状態の麦であればまだ麦踏みできます。



3 排水対策の徹底

○排水溝は排水路に繋いでおきます。また、時々排水溝を点検して、必要に応じて溝さらいを行いましょう。

○排水対策をすることで圃場が乾きやすくなり、麦踏みを行いやすくなります。排水溝がまだない場合は早急に設置しましょう。

<秋耕をしましょう>

秋耕を早めに行うことで、以下のような対策ができます。

○稲わらをすき込み、有機物の分解を進める

早い時期に稲わらをすき込むことで、わらの腐熟が促進され、次年産の水稻で根腐れを起こすメタンガスの発生を減らすことができます。すき込む時には、10aあたり10～20kgの石灰窒素を散布し、分解を促しましょう。

○イネ縞葉枯病対策

イネ縞葉枯病ウイルスを媒介するヒメトビウンカは再生稲（ひこばえ）やイネ科雑草に寄生し越冬します。縞葉枯病が発生した圃場の再生稲は、ヒメトビウンカの増殖源と縞葉枯ウイルスの獲得源になりますので、早めに丁寧な耕起を行いましょう。

なお、「とちぎの星」「あさひの夢」「にじのきらめき」はイネ縞葉枯病ウイルスの抵抗性を持っています。

(裏面あり)



<農業用ハウスの雪害対策>

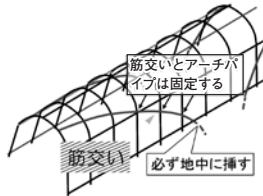
○平成26年の大雪は県内各地で多くのハウスが倒壊するなど、甚大な被害を及ぼしました。年数が経過したハウスは強度が低下しています。雪が降る前に必ずハウスの点検を行い、部材の更新や補強対策に万全を期し、雪害に強い農業経営を実現しましょう。

栃木県



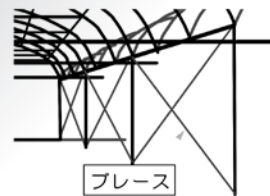
筋交い

表面の奥行き方向への倒壊防止



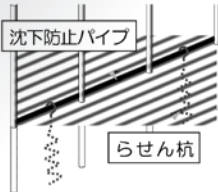
ブレース

ハウスの変形防止



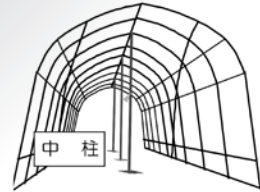
沈下防止とらせん杭

アーチパイプの沈下と引き抜き防止



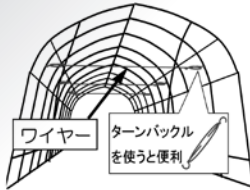
中柱

真上からの負荷による屋根のM字型陥没防止



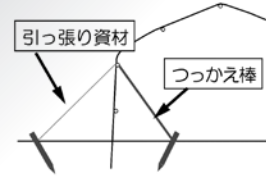
ワイヤーによる補強

アーチパイプの横への広がり防止



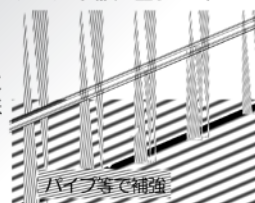
肩部の補強

軒の変形防止 (主に強風対策)



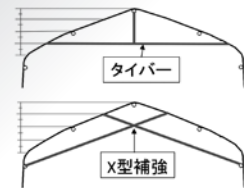
支柱の補強

アーチパイプの地際が部分的に腐食している場合の補強 (本来はパイプ交換が望ましい)



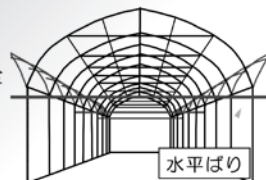
タイバー・X型補強

アーチパイプのM字型陥没防止



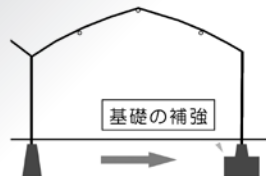
水平ばり

柱と柱をつなぐ水平材。ハウス全体の倒伏防止



基礎の増強

基礎の沈下や浮き上がり防止 (外周だけでも効果的)



農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう！



身支度も
万全にし
てまる！

- ① 農薬容器のラベルをよく読み正しく使う
- ② 農薬の飛散防止を徹底する
- ③ 農薬の使用状況を正確に記帳する